

大津京遷都一三五〇年

近江神宮の御祭神・天智天皇はその六年（西暦六六七）三月十日、奈良の飛鳥から近江大津宮（大津京）に遷都されました。現在の暦で四月二十日にあたります。毎年四月二十日の近江神宮の例祭はこの日を記念して創建当初から例祭日と定められています。今年平成二十九年は大津京遷都の年から数えて満一三五〇年となります。大津宮に都を置いて数々の新政治を行われたことが、近江国・大津の発展の源流となり、また後世に大きな影響を与えました。

遷都一三五〇年記念行事として、四月二十九日に一三五〇年奉告祭と記念行事が開催されます。午後一時より奉告祭、午後二時より舞楽と別会場で講演会、午後三時四十五分よりコンサートを開催し

近江神宮日供神饌講
新版第二十七号
平成二十九年三月十日

大津京遷都1350年 奉告祭

～音の贈り物～
平成29年4月29日(土) 昭和の日
於 近江神宮

一部 祭典と舞楽と講演と
一部 音楽コンサート

奉告祭
会場：近江神宮社殿
午後1時～1時50分

舞楽 蘭陵王
並びに雅楽管絃
会場：社殿中庭特設舞台
午後2時～午後3時
舞人 嵐山修平と奏和会一同

祝賀記念講演
会場：近江勤学館
午後2時～午後3時30分
演題：天智天皇と昭和天皇
講師：中曾根 猛良先生
※どなた様でも自由にご参列ご来場ください。

入場料 3,000円
会場：社殿特設舞台
午後3時45分～午後7時30分

「大津京物語」～いしよから未来へ～
若狭富美子（ソプラノ）、岸本佳美（メゾソプラノ）
中山美奈子（オペラ・ヴォーカル）
原乃南（ピアノ）、原純子（ヴァイオリン）
西原美（アルト）、石田和良（ピアノ）
佐藤久史（指揮）

ジャズ演奏者
ビッグバンド CCO
（コナツクワッシュオーケストラ）

中井船×真華のコレラ

中井船（ギタリスト） 真華（JAZZシンガー）
ニューオーブから
～音楽フェスティバル～
ロープウェイ（ケーブル）
アライバル（アライバル）
アライバル（アライバル）

主催：近江神宮
共催：大津市を愛する会
後援：大津市、大津市観光局
後援：滋賀県、大津市

チケット取組：近江神宮
お問合せ：077-523-7225（平日午前）
090-6236-9800（夜間）

手作り市 模擬店



ます。前号でお知らせしたとおり、これに先だつプレイメントとして有志の方々の主催により三月二十五日にもコンサートが、また六月四日には、かねてから大津京関連の芸術イベントを行っている、「大津京の道実行委員会」による創作オペラなどが行われることになっていきます。この六月四日は、近江神宮では流鏝馬神事の本年の開催日であるとともに、本年は滋賀県江州音頭協会により江州音頭大会も開催されます。

なお、三月初中旬恒例の「びわ湖開き」にあたって、本年は行事名に「大津京遷都一三五〇年」が冠して行われました。

『敗戦復興の千年史』天智天皇と昭和天皇』

右記の本がこのたび出版されました。あたかも大津京一三五〇年に合わせた記念出版であるかのように先ごろ刊行された次第です。

（山本直人氏著 展転社刊 税込一七二八円）

天智天皇の治世に習って昭和天皇が戦後の復興を成し遂げたいと考えられた、その昭和天皇の祈りと御志に則して天智天皇の時代と昭和の時代を物語った本です。天智天皇ご一代の足跡をたどり、歴史上天智天皇と大津宮がどのように認識されてきたか、昭和天皇が天智天皇とその時代をどのようにお考えであったかを論述していま

す。近江神宮の御創建の経緯にまで目を配っており、本来近江神宮で出してもおかしくない内容のもの、外部の著者と商業出版社から出版された次第です。一般書店で扱っていただきますので、店頭がない場合は書店にご注文

敗戦の復興の千年史

天智天皇と昭和天皇



山本直人

展転社

ください。内容は次のとおりです。

序説 日本人が忘れたもう一つの敗戦

第一章 歴史学者・白鳥庫吉の帝王学

第二章 大化改新から百済の役へ

第三章 運命の白村江

第四章 幻の湖都・大津宮

第五章 国土防衛の礎

第六章 近江荒都と壬申争乱

第七章 天智天皇鑽仰の歩み

第八章 近江神宮創建までの道のり

第九章 昭和動乱と皇室の危機

第十章 新日本建設と昭和の中興

むすびく国家千年の大計へく

境内階段に手すり新設

外拝殿下・楼門下のそれぞれ五段・十段ほどの短い方の階段、また二の鳥居下の階段には、今まで手すりがありませんでしたが、このたび、ここにも手すりを設けました。(外拝殿下・楼門下は既設の手すりの位置に合せた左右両側に、二の鳥居下は中央に設置)



外拝殿下



二の鳥居下

皇室と国家社会、崇敬者の皆様の平安を祈願する毎日のお祭りを行っています。日供(につく)とは毎朝夕のお供え物、また朝夕にお供えしてお祭りすることをいい、神饌(しんせん)とは各種神事のお供え物のことをいいます。

日供神饌講は近江神宮の御祭神の御神徳を尊び、日々のお供え物をお供えして祈願と感謝の心を捧げる崇敬者の会です。講員の皆様には日々のお供え物の代りとして講費を納めていただき、近江神宮の大切な土台のひとつとなっていていただいています。神様にお供え物を差し上げるようなお気持ちで講費をお納めいただければ幸いです。講員の皆様にはますますに御神徳をいただかれ、明るく豊かで幸多き日々をお過ごしください。

春から初夏の祭典・行事

三月十七日	午前十一時	祈年祭
四月二十日	午前十時	例祭 勅使参向
四月二十三日	午後二時	近江まつり子供みこし渡御
四月二十九日	午前十一時	昭和祭
四月二十九日	午後一時	大津京一三五〇年奉告祭・記念行事
五月十七日	午前十一時	崇福寺鎮魂供養祭(崇福寺跡にて)
六月四日	午後〇時三十分	流鏝馬神事
六月九日	午前十時	献茶祭
六月十日	午前十一時	漏刻祭
六月二十五日	午前十一時	献菓献煎茶祭
六月三十日	午前十一時	日供神饌講講社大祭 饗宴祭
六月三十日	午後四時	大祓式

日供神饌講とは

近江神宮では毎朝夕お供え物をお供えして御神徳に感謝の誠を捧げ、

講社通信は近江神宮ホームページでカラーで見られます。

<http://www.oumi-jingu.org/>「日供神饌講」ページ